（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	POCCOかいりゅうおう

公表日 2024年12月20日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容に合わせて机の配置を変更するなどして、限りあるスペースを有効に活用できるようにしている。	安全に、また快適に過ごせるように、活動内容に合わせたスペースの確保や場所の特定をその都度行っていく。収納の工夫や家具の配置変更を検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		法令に基づいた職員配置を行っている。専門的支援の実施においても、支援者を適切に配置し、きめ細かな支援が実施できるよう、送迎の割り振りや実施時間を工夫して対応している。	利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するためには、必要に応じて定数以上の職員配置を行い、活動内容に柔軟に対応できる体制を整えることが望ましい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	現在の利用者にとっては問題はないが、車椅子を利用する場合は工夫や改善が必要。	更衣スペースを確保するために、カーテンの設置などを検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		感染症対策の一環として、清潔な環境を保つため、日々清掃や整理整頓を行っている。子どもたちが自ら進んで片付けられるよう、分かりやすい表示なども工夫している。	玩具など、物が増えて乱雑になりがちなので、定期的に不要なものを処分するなど見直しを行う。必要に応じて、空間の間仕切りができるとよい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	集中したいとき、クールダウンしたい時などに、相談室の利用を勧めている。	集中して取り組んだり、気持ちを落ち着かせたい場合に、個室や静かなスペースが不足しており、個別のニーズに対応しきれていない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		月1ミーティングに参加できない職員もいるため、活動のねらいや振り返り、個々の支援内容や達成度の確認については、毎日の打ち合わせにおいて行っている。	業務改善を効果的に進めるために、担当者を明確にし、効率的な作業分担を行うとともに、情報共有を密に行い、定期的な振り返りの機会を設けて改善につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年評価をいただいている。評価の結果を受けて、職員での話し合いの場を設け、業務の改善につなげている。	保護者の皆様の多様なご意見を把握するため、日々のコミュニケーションを通じて、より密な連携を図り、業務の改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		月1ミーティングや毎日の打ち合わせの中で、職員が意見や考えを出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		現在は行われていないが、今後検討をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内研修が充実しているため、専門性を高めるための機会を得ることができている。また、日々の療育の問題解決にもつながっている。	外部研修にも積極的に参加していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		年間の支援プログラムを作成し、ホームページで公表している。	利用者や保護者等に向けて、個別支援計画等の説明時に併せて丁寧に説明していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		モニタリング会議や関係者会議に出席し、保護者のニーズや課題の把握に努めている。児発管以外の職員も会議出席の機会を設けている。	保護者との面談の機会を増やし、ニーズや課題を丁寧に聞き取り、支援につなげていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		担当者会議だけでなく、日々、支援の様子や結果を積極的に話し合うことで、多様な視点から子どもを理解し、共通認識の下で計画を作成するようにしている。	こどもの発達段階を把握し、一人ひとりのこどもに合った関わり方や支援方法を丁寧に考えていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6		専門的支援を実施することにより、職員間でねらいや目的を共有し、計画に沿った効果的な支援を提供できるように努めている。	専門的支援の実施領域だけでなく、その他の支援についても、職員間の共通認識を深め、連携を強化していく。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		標準化されたツールを用いて、定期的に保護者・職員でアセスメントを行い、適応行動の状況確認を行っている。	1人ひとりに合わせて、そのこどもに必要な適応行動能力を把握し、支援につなげていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の項目については、発達過程に考慮してより具体的な支援内容を設定していくことが望ましい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員間でアイディアを出し合ったり、こどもの要望を取り入れながら、より良い活動が行えるように努めている。	活動の振り返りを充実させ、プログラムの改善にも取り組んでいく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		SNSなどを効果的に活用し、積極的に新しい活動を取り入れている。こどもたちの様子や課題に即した活動の展開に努めている。	こども達の「やりたい」気持ちに応えられるよう、こども達が主体的に活動できる機会をより多く設けていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		運動や工作、作業など、様々な活動を用意し、こどもの状況や発達段階に合わせて、個別活動や集団活動を取り入れて、より効果的な学びの場を提供している。	状況に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせ、静的な活動と動的な活動の両方をバランスよく取り入れることで、様々な経験を積めるよう支援していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		パート職員も含めた全職員で支援内容や役割分担の確認を行っている。	安全面を十分に確保するため、職員間の役割分担を明確にし、連携を強化しながら、適切な支援を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	6		当日中に打ち合わせをすることはできていないが、翌日に振り返りを行い、気づいた点等を共有している。	支援の振り返りを丁寧に行い、結果をその後の支援につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		HUGを活用して日々の支援の様子を記録している。	個々の成長や課題についての評価を記録するだけでなく、活動記録の作成を行い、活動内容や支援の改善点を記録し、その後の支援に活かしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		目標や課題に対しての評価、見直しの必要性や支援の方向性の確認を複数の職員で行っている。	定期的なモニタリングと関係機関との会議を通じて、保護者や学校とも連携し、情報交換を行いながら、計画の見直しを図っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6		複数の内容を組み合わせた活動計画を立て、楽しみながら、意欲的に取り組めるよう工夫している。	地域交流の機会が少ないため、地域とのつながりが持てるような活動を取り入れ、社会経験の幅を広げていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自主性を育むため、活動の場面等で、年齢や発達段階に応じた様々な選択肢を提示し、自ら選ぶ機会を設けている。	支援者主導となりがちなルール作りなども、こどもと一緒に考え、決定していく取り組みができるとよい。
関係機関や保護者との	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児発管だけでなく、可能であれば支援に関わる担当職員も出席し、家庭や学校での様子を把握するようにしている。	児発管以外の支援に関わる職員も可能な限り同席できるようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		相談支援専門員が招集する会議などを通じて関係機関との連携を図っている。	相談支援専門員との連携を強化して、他の関係機関との連携を図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		毎月、予定表を学校からいただき、下校時刻の確認をしている。送迎が遅れる際には学校に連絡し、ご理解とご協力をいただいている。	送迎時にも学校の先生方とのコミュニケーションをとるように心がけ、連携を強化していかれるように努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		相談支援専門員を通して情報を共有したり、就学前の連携会議で相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	2	午後からの研修も多いため、都合がつけば参加するようにしている。	

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	直接的な交流プログラムは設けていないが、公園などの公共施設を利用したり、地域や施設のイベントに参加したりする中で、自然と他のこども達と関わる機会がある。	放課後児童クラブや児童館との交流の糸口が見つからない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時を利用して、その日の様子や支援の内容等をお伝えしたり、ご家庭での様子をお聞きして情報を共有している。	課題や悩みなどを伝え合う機会が少ないと感じる。もっと気軽に保護者と話し合いができる場を設けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		定期的に、顧問心理士の相談会や研修会が開催されているため、必要に応じて保護者に参加の呼びかけをしている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時や変更があった場合に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			こども本人の意向を確認する機会を積極的に設けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6			保護者だけでなく、こども本人の意見を聴いたり、同意を得る機会を積極的に設けていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		研修に参加したり、個別相談会の立ち合いを行い、相談支援力の向上に努めている。	職員間で情報を共有し、共通理解をもって支援できるようにする。個々の専門性や相談支援力の向上に努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3	家族参加型の活動を開催し、保護者やきょうだい同士の交流のきっかけとなるような場の提供をしている。	保護者同士がもっと気軽に交流できる機会を設けていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情受付箱を設置したり、苦情受付担当者を決めて、迅速な対応を心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		HPやSNS、公式LINEを活用して発信している。	活動内容や持ち物の連絡は、時間に余裕をもって発信するよう心がける。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取り扱いには十分注意している。	SNSなどでの情報発信の際にも、同意書に基づき適切に発信できるように配慮する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		特性に合った方法で意思疎通できるように心がけている。	特性に合わせた対応、情報伝達方法の工夫を心がけていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	地域の管轄の警察署や消防署の見学、事業所への講師派遣などを行い、交流を図っている。	事業所の行事に地域の方を招待するなどは今のところできていない。地域に開かれた事業運営の方法を検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		年間計画に基づき訓練を実施し、その様子をSNSで発信することにより、ご家族への周知につながっている。	ご家族への周知が十分に図られるよう、引き続き努めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			緊急時の持ち出し袋や備蓄品の点検、買い替えを定期的に行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時の確認の他、年度初めなど定期的に状況の確認を行っている。	緊急時に迅速に対応できるよう、発作時等の対応方法の周知を徹底する。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		対象児童へのおやつの提供や調理活動の際には、職員のダブルチェックと保護者への確認を行っている。	対象児童については、検査結果や指示書に基づいて対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業所内での情報共有だけでなく、他事業所の事例も参考にしながら事故防止に努めている。	細かなヒヤリハット事例の洗い出しと情報共有が不十分と感じる。積極的に情報共有を行い、安全に対する意識を高めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎年研修を受講し、虐待や身体拘束についての共通理解をもって支援にあたっている。	研修会への参加のほか、事業所内でも身体拘束や虐待にあたる行為について定期的に確認を行い、適切な対応ができるようにする。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		やむを得ず行う場合の身体拘束について契約時に保護者に説明し、同意書をいただいている。身体拘束の事案が発生した場合には、保護者に丁寧に説明を行い、記録に残している。	